SPECIAL FEATURE

総合力で広がるセコムの可能性

空港の新たな「安全・安心」を実現

セコムは、これまで人的警備が主流だった空港を舞台に、最新テクノロジーの活用による効率化を実現。このノウハウを大規模施設の包括的なセキュリティに生かしていきます。

背景

日本各地で進む空港の経営合理化

近年、日本各地で空港運営の民営化・合理化が進められています。それにより、着陸料の引き下げや、旅客ターミナルビルの運営面での改善など、全面的にサービス品質の向上がもたらされ、国内外の航空会社に選ばれる空港になるとともに、周辺地域の観光などの経済的な活性効果も期待されています。

セコムの総合力で国際空港の警備を受注

経営合理化の一環として、抜本的な空港警備の見直しを図っていた関西国際空港と大阪国際空港（以下、両空港）で、セコムは2020年に警備業務を受注し、翌年よりサービス提供を開始しました。これまでの成田国際空港と東京国際空港の旅客ターミナルでの常駐警備や国内4空港での飛行場面管理やスポット管理業務の実績、機械化を核に安全性・生産性の両立を追求した企画力、空港警備で培った経験とノウハウに裏打ちされた包括的なソリューション提案という3点が、今回の受注に結びつきました。

最新テクノロジーの活用により、高品質な警備と30%の省人化を実現

人的警備が主体の空港警備は、人員の確保が大きな課題になります。セコムは、将来的な労働力人口の減少も見据え、空港の全域を対象に高品質で効率的な警備体制を追求しました。各エリアで必要なセキュリティレベルの精査や、最新テクノロジーの活用により、約30%の省人化を実現し、安全性を確保しながら生産性を向上させました。

切れ目のない監視体制とセコム基準のセキュリティ

両空港の警備マネジメント業務は、関西国際空港内に設置した「セコムコントロールデスク」で24時間365日の監視体制のもと、一元管理されており、オンライン・セキュリティシステムのノウハウを生かしたきめ細かな警備を提供しています。両空港では、セコムの策定した空港警備計画に則って、協力警備会社の育成・指導を行うなどセコムが責任を持って統轄し、ワンチーム体制で空港の安全を守っています。

空港警備のノウハウを生かした今後の展開

セコムは、両空港で得た経験から、独自の効率的で一体的な「空港の安全・安心基準」を確立しました。さらに、2022年7月には、大型商業施設などの常駐警備業務を得意とし、全国35空港で航空保安業務を提供する（株）セノンがグループ入りしたことにより、空港への販売チャネルが強化され、セコムの技術力を組み合わせた高品質・高効率なセキュリティの提供が可能となります。

今後は、セコム独自の空港警備の強みを訴求し、国内外の空港からの受注につなげると同時に、空港警備で得たノウハウを大規模施設の人的警備と機械化を相互補完した包括的なセキュリティに昇華させ、さらなる業容の拡大をめざしていきます。

セキュリティロボットの導入で巡回警備員の配備を削減

自律走行型巡回監視ロボット「セコムロボットX2」を、関西国際空港第2ターミナルおよび直結駅の改札前コンコースに導入した結果、搭載カメラでの画像監視や放置物の点検など、遠隔監視が可能となり、巡回警備の合理化を実現しました。

巡回車両にカメラを搭載し、乗務人員を削減

空港内を走行する警備用巡回車両には、360度リアルタイム遠隔監視と録画が可能な高精細カメラが搭載され、乗務人員を半減した運用を可能にしました。

車両ゲートに自動開閉システムを導入し、確認時間を大幅短縮

出入りを制御する車両ゲート入口には、警備員の配置にかえて車番認証システムに連動した自動開閉システムを導入し、車両1台あたりのチェック時間を3分から10秒に大幅短縮しました。